

夢っくすニュース

No.2

2002年3月31日

UMEX NEWS **UMEX NEWS** UMEX NEWS

UMEXサロン国際大学第3学生寮1階にオープン

国際大学留学生による母国紹介シリーズ始まる

3月5日火曜日、午後7時よりUMEXサロンにて、第一回の母国紹介コーナーが開かれ、大盛況の中成功をおさめました。国際大学1年生のボクダン君が、母国ルーマニアの歴史や風土、文化、慣習など幅広い分野にわたって紹介してくれました。母国紹介をする役に立候補してから、駐日ルーマニア大使館から日本語版の母国案内やパンフレットを取り寄せたという念のこもった素晴らしい準備のいかもあって、25人以上もの参加者の人々は、なかなか触れることのできない東欧の国の紹介に真剣に聞き入っていました。母国紹介が終わると、同じルーマニアからの留学生アナ・マリアさんと準備したルーマニア料理（ママリガ＝コーンパウダープディングの意）が参加者の方に振舞われたり、パソコンを使ってドナウ川の自然や歴史的建築物が紹介されたりされるなど、眼でも耳でも味でも楽しめる素晴らしい母国紹介でした。会場からは、質問もたくさん出され、ルーマニアに旅行に行きたいという声もたくさん聞かれました。母国紹介は8時過ぎには終わりましたが、最終的にはUMEXサロンの終了時間である9時まで、ボクダン君を囲んでルーマニアや東欧の話に花が咲いた素晴らしい2時間となりました。

野村幸平 UMEX サロン学生スタッフ



第二回目の3月20日は、エレナさん、シャフカット君、サイドバさんがウズベキスタンを紹介しました。まず、最初に、ウズベキスタンの歴史が紹介されました。ウズベキスタンは、アケメネス朝ペルシャの時代に遡ることができ、イスラム教が普及した8世紀の第一次中央アジアルネッサンス期に数学、天文学などの科学が発展し、第二次中央アジアルネッサンス期と呼ばれるティムール帝国の時代（1370-1507）には、文学、細密画など宮廷文化が栄えました。その後、ロシアによる征服、ソ連による併合を経て、1991年8月31日に独立。人口は2500万人ですが、その8割が18歳未満という若い国です。公用語はウズベク語とロシア語でまだ英語の普及率は低いとのこと。

次に、ウズベキスタンの観光スポットなどが紹介されました。そのなかで、タシュケントにある劇場は1945年に日本人捕虜によって建設されたという説明に参加者から驚きの声があがりました。また、一般的なウズベキスタンの人々に日本のイメージを尋ねると、「サムライ、忍者、柔道、空手」という答えが返ってくるとのこと。まだ、日本は遠い国ようです。ウズベキスタンでは、フルーツがたくさん採れます。すいかも名産品の一つで、「八色すいか」とどちらが大きいか、どちらがおいしいかの質問が会場から飛び出しました。残念ながら、エレナさんたちは昨年9月の来日で、八色すいかはまだ食べていないとのこと。今年の夏は、ぜひ八色すいかを食べていただき、感想を聞かせて欲しいですね。

ウズベキスタンの平均結婚年齢は、女性が19歳、男性が22歳です。大学に進学しない女性は、高校卒業後、お見合いで結婚するのが一般的で、結婚すると半年くらいは夫の両親と同居します。ご両親の面倒を見るのは、日本とは逆に一番年下の男の子の役割とのこと。まだ、なじみの薄いウズベキスタンの話に会場からは、質問が絶えませんでした。

トピック

- 1面 国際大学留学生による母国紹介シリーズ始まる
- 2面 東京地区視察 / 留学生事情と地域日本語教育事情にふれて...佐藤鈴子
新潟県内国際交流団体訪問して.....関 洋子
- 3面 UMEXサロンだより 夢っくすサロンに参加して
- 4面 UMEX研修会ノート
- 5面 第4回準備会報告 UMEXの目的と活動
キャラクター決定!
- 6面 UMEXサロン・カレンダー UMEXイベント
UMEX研修会シリーズ

東京地区視察

留学生事情と 地域日本語教育事情にふれて

佐藤鈴子

2月18日、19日と会員5名で東京地区への先進地視察へ参加しました。2月18日の朝早く浦佐を出て、まず、(財)日本国際教育協会(AIEJ)を訪れました。ここは、文部科学省の外郭団体として1957年設立された、日本への留学生の受入と留学生政策の中心となる団体で、オフィスはあのトレンドな“お台場”にあります。UMEXへの期待、そして今後の展望として、最初に人材育成を行い、地域と密接に結び付いている、一方的な関係では無く、互いに交流を深める事によって得るものがある、その相互関係が大切であるし、その可能性を評価しているというお話でした。その後、隣接する国際交流研究大学村内の学生向けアパートを見せてもらいました。本当に綺麗な機能的な宿舎を目の当たりにし、ここに住める学生はラッキーだとつくづく思いました。

次に、草の根的なボランティアグループ「留学生相談室」を訪れ、福島みち子代表よりお話を伺いました。この団体は、1986年設立した任意団体ですが、かつて、留学生は部屋を借りる事さえままならない時期があったという話を聞き、驚きました。国際交流を推進する時代に入り、都から助成金を受けることができるようになって、現在のように組織が整備されたとの事でした。そんな話を聞いている間も、ずっと一人のアジア人らしい学生がボランティアスタッフとマンツーマンで日本語を勉強しており、本当に草の根的なボランティア活動から成り立って来た、留学生に密着している会だと実感しました。

最後にアジア学生文化協会(ABK)を訪れ、ABKの成り立ちから事業まで広くお話を伺いました。その後、ABKの寮に住む、留学生と懇談する機会にも恵まれ、国際大学の学生とは異なる留学生事情・現状も聞くことができ、留学生と一言で言っても多種多様なのだと思いをめぐらせました。

翌2月19日は文部科学省で、日本の留学生政策の概要について説明を受け、その後、武蔵野国際交流協会(MIA)を訪ねました。同協会は、市民レベルの交流により市の国際化を図るべきだという市の提言を受け、設立された国際交流協会です。同席された文化庁国語課の野山氏によれば、ここで行われている、外国人に対する日本語教育は、「武蔵野方式」と言われており、地域日本語教育のモデルパターンとなっているそうです。これは、専門家による日本語教室と、日常会話を学ぶマンツーマン方式を並行して行い、日本語を習得してもらおうという点に特徴があり、確かによい方式だと思いました。

この2日間でのいろいろな立場・観点から、日本における留学生事情・地域国際化、その問題点・展望など、本当に多くの事を学ばせていただきました。今回、お会いした方々は、行政・民間の枠なく一緒に、この新潟の一地方から立ち上がるようにしている小さな「うおぬま国際交流協会」のために、自らのご経験・お考えなど、惜しみ無く話して下さいました。国際大学という、ユニークな大学のあるこの魚沼地域で、地域住民・大学・行政が、皆で交流をはかり、支えあって行ければと思います。そして、母国に帰る人・日本に残る人、それぞれにほんの少しでも好印象が残り、相互理解が根付く、そのきっかけの一旦をUMEXが担える事を切に願います。



東京 新潟

新潟県内国際交流団体訪問して

関 洋子

2月28日、UMEXの会員の一人として県内国際交流団体の訪問に同行させていただく機会を得ました。日本語学習ボランティア、高校留学生のお世話、国際大学留学生の家主としてなど、常に外国人と関わりを持ってはいたものの、どれも個人レベルでの関係であるため、国際交流と名の付く活動団体への訪問に私のような者が同行してよいのかためらいながらの参加でしたが、非常に得ることの多い貴重な1日となりました。

最初に訪れた新潟県国際交流協会では、UMEXは魚沼地域の会員を中心に地元密着型の国際交流を目指してはいかかと、UMEXの目指す方向についてのアドバイスを受け、諸活動を行うのに必要となる国際交流活動支援補助金の手続きや、受給資格の説明をしていただきました。次に訪れた新潟県国際課では、県としては留学生が活躍できるように、国際理解に貢献できるようにと期待しているというお話を伺い、国際交流員による出前講座の説明を受けました。昼食をはさんで訪れた新潟大学留学センターの中村教授とお話は、実際に、留学生と向き合ってお世話をされている先生だけに、UMEXの方向性やもう既に始まっている活動に関して、指摘やアドバイスを数多くいただきました。そのどれもが的確で、こちらの伺いたいことも尽きず、時間が幾らあっても足りないように思えました。中でも、どんな活動にも留学生を巻き込んでやるべきで、今回のような訪問グループの中にも留学生を入れる配慮をしたらよいとの指摘には、本当になるほどその通りだと痛感しました。新潟大学で行っている、留学生だけにとどまらず、日本人ボランティア学生主導の企画や活動は斬新で、時間的にもゆとりのある学生による参加の大切さも改めて知ることとなりました。

最後に、新潟国際ボランティアセンター(NVC)の高橋副会長より、かねてから興味があった、総合学習への同センターでの対応について、直接伺うことが出来ました。現在小生の第二子は、去年は郷土というテーマで、地域のボランティアから昔の話や地元の毘沙門様の話、裸押し合い大祭の話の聞いたり、お年寄りを中心としたボランティアとともに郷土料理を作ったりと、地域やボランティアを巻き込んでの総合学習を体験したこともあり、NVCが、どのように小学校の総合学習に関わっているのかがとても関心のあるところでした。実際に国際ボランティアとして活躍している方の国際協力体験談や、世界の子供達の実体についての講演を小学校で行っていることなど、事例を紹介していただきました。環境、あるいは、国際理解をテーマにした総合学習などにも、国際大学の学生に講師を依頼するなど、もっと幅広く授業にボランティアとして、参加していただくこともできるのではないかと道中考えを巡らせました。そのような要請に応えられるためにもUMEXのような団体が仲介役となれるのではないかと考えます。

これからのUMEXの活動が、スムーズに地元に着定していくためには、特定の人とその活動の負担や苦勞を背負い込まずに、無理のない計画のもと、会員全体・地域住民・学生ボランティアなど可能な限り多くの人々を巻き込んで、留学生や外国人居住者と共に、お互いに出来ることを分け合っていくことが必要ではないのではないかと、今回の訪問で再確認することとなりました。

準備会で、市之瀬国際大学事務総長が、カリフォルニアの大学院へ留学されていたときに、地域ボランティアの方々へ世話になり、今でも交際が続いているというお話をされましたが、何も解らない留学生が大和町に来たとき、UMEXがそのような役割を担えることを、また留学生はじめこの地域に住む外国人の方々が、地元で貢献できるチャンスを得られることを願ってやみません。

UMEX SALOON

UMEX サロンだより

2月5日より毎週火曜と金曜、国際大学第3学生寮1階でUMEXサロンを開いています。サロンでは、日本語、英語を交えて雑談を楽しんだり、留学生の日本語学習のサポートをしたり、生活相談を行っています。参加者の声をご紹介します。



帰国する人が日本に対して好印象をもってほしい。

サロンから楽しい企画が生まれていてもらいたい。

Volunteers have been utmost nice. They have been patient and try to help us in several ways.

日本人も含めていろいろな国の人と出会えて楽しい。

I want to teach my country's dish and language.

It has been a full cultural integration. I have learned a lot about Japanese culture, the way people think, their life experience, their trips, opinions about economy, politics, education, countries, language, etc.

The most useful thing is that I have a chance to practice Japanese.



夢っくすサロンに参加して

I left Indonesia with only some phrases of Japanese I knew. Staying at home while my son goes to nursery and comes back speaking some Japanese I don't understand, I really need to learn Japanese and Japanese culture. It was difficult to find volunteer teachers in Yamato-machi, so I learnt Japanese from books and by talking to neighbors and farmers around IUJ campus. I found they were friendly, despite the fact that it was not easy to communicate.

Now UMEX is here, it is useful for me who have quite a lot of time to spend in Yamato-machi. UMEX helps me enjoying Japan. As a result of chatting with UMEX volunteers, now I can talk to my Japanese friends with more confident. In addition, UMEX cultural events are one of the ways to enjoy Japan. LET'S MEET UMEX PEOPLE IN SD-3!"

Theresia Parmiyati



私は、ほんのわずかの日本語しか知らないまま、インドネシアを発ち日本へやってきました。私の息子が保育所へ行き、私のわからない日本語を話しながら帰ってくるまでの間、私は家にいるので、本当に日本語や日本文化について学ばなければならないと思っていました。大和町でボランティアの先生を見つけることは、私にとって大変なことです。だから、私は、本や、隣の人やキャンパスの周りにいる農家の人達に話しかけることで勉強をしていました。たとえコミュニケーションがうまくとれなくても、皆さん、親切な人達だと思っていました。

今、UMEXがここ大学にでき、大和町で大半の時間を過ごす私にとって、とても役立っています。UMEXは日本を楽しむ助けとなってくれます。UMEXの会員の皆さんとおしゃべりをするようになって、私は前より少し自信をもって、日本人の友達と話すことができるようになりました。そして、UMEXの文化紹介イベントは、日本での生活における楽しみの一つです。皆さん、UMEXサロンで是非会いましょう！

パルミ（インドネシア）

パルミさんは、インドネシアからの留学生ダナルトさんの奥様です。息子のリノちゃんと家族で大学のキャンパスに住んでいます。

UMEX 研修会ノート

2月23日より研修会シリーズが大和町公民館にて始まりました。第一回目はJAFSA（国際教育交流協議会）事務局長の堀江学氏、第二回目3月2日は、一橋大学留学生センター教授の横田雅弘氏、そして第三回目3月23日は南山大学外国語学部助教授の近藤祐一氏、同大学留学生センター堀江未来氏を講師としてお招きしました。内容を一部ご紹介します。

「日本の国際教育交流と地域の人々の役割」より(要約)

「くにたち地域国際交流活動の実践」より(要約)

堀江 学氏

2001年5月1日現在、78,812人の留学生が日本に勉強にきています。その内72,197人(91.6%)がアジア地域からで、中国(55.8%)、韓国(18.7%)、台湾(5.4%)、マレーシア(2.3%)、タイ(1.8%)と続きます。全留学生の76.5%は、大学または大学院で勉強しています。

国際大学は、大学院のみの大学で、英語で授業を行っている日本ではとてもユニークな大学です。そこで学ぶ留学生は、日本語ができなければ生活面では不便を感じるし、英語が母語でない学生にとっては、授業を英語で受けなければならないという点で二重の苦勞を背負うことになります。留学生はまた、私達と同じ地域住民でもあります。

そんな留学生に地域はどのような支援を行うことができるのでしょうか？ ホームページで日本の情報を提供し、ホームステイ・ホームビジットの機会を提供し、学校訪問プログラムや生活用品バザーの実施、社会見学旅行、交流パーティーの実施など様々なことが考えられます。こうした支援、交流を通し、また、日本文化を伝えることにより、私達は、留学生と共に文化、社会、価値観の違いなどを学ぶことになります。そして何よりもそれは、次世代を担う子供達の視野を広げるため、大切な意味があるのです。

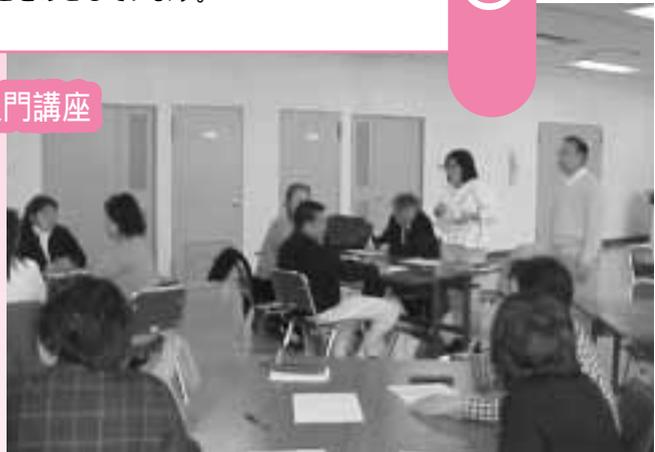


横田 雅弘氏

現在、世界には約150万人の留学生がいるといわれ、大きな潮流となっています。留学生の受け入れは、単なる支援としてではなく、教育産業の発展や外交戦略としても重要な意味づけがなされるべきです。留学生を戦略として考えるのは国、大学ばかりではありません。地域も自らの問題として取り上げ、世界の状況を理解しつつ、プラスの状況を作り出し続けていけるならば、その地域の大きな活性剤となり得るでしょう。心理学者のゴードン・オルポート氏は、異なる民族が気持ちよく共存する条件として、1) 対等なステータス 2) 共通の目的 3) 組織的支援 をあげています。留学生はこの三つの条件をクリアしやすい存在であり、学生自身、大学、地域を変える肯定的側面を多くもっている存在なのです。大学が地域に貢献するために、学生が市民意識をもって街づくりに貢献するために何をすべきか？ このテーマの下、10数人のグループで「くにたち地域国際交流会」を発足させました。まず、留学生に対する聞き取り調査を行った結果、留学生家族の生活支援の必要性を感じ、日本語教室を開始しました。その他、国際交流フェスティバル、民族音楽の夕べ、日本語スピーチコンテスト、留学生パネルディスカッションなどのイベントを行い、その様子を市報、公民館だよりで紹介し、会員増加につなげました。現在は、各部会が独立して自由に運営を行っています。最初は、留学生に何をしてくれるか？ということからスタートした会でしたが、外国人も何か教える、皆と一緒に活動するといった相互交流に発展していきました。これからは、外国の住民に街づくり、街の再開発に参加してもらおうということをめざしています。

異文化コミュニケーション入門講座

3月23日に行われた、近藤 堀江両講師による「異文化コミュニケーション入門講座」は、参加型の研修となりました。まず、国際交流に対し、期待すること(肯定的側面)、心配していること(否定的側面)を各自が紙に書き、グループ毎に発表しました。その後、シミュレーションゲームを行い、その体験や感想を全員が述べ、最後に、異文化コミュニケーション・国際交流活動を行っていく上で何が大切かを考えていきました。シミュレーションゲームの内容はいかに？参加者が体験し、そこから「気づく」過程が学習の重要な一部とのこと。次回、講座が開かれる際は是非参加し、体験してみてください。



第4回準備会報告

3月20日午後7時から第4回UMEX準備会を大和町公民館会議室にて開催しました。第4回準備会では、まず、会員登録数(3月20日現在79名)が発表され、その後、2001年度準備会活動として、「日本語の教え方講座」受講状況(3月開始15名、4月開始16名)、先進地視察(東京・新潟・北海道)、研修会(2月23日・3月9日)、現在企画中のイベント(バスツアー・日本文化デー)、ニュースレター発行計画についてそれぞれ事務局、参加者より報告がありました。

5月の正式発足に向けての運営方法、活動について、権平代表より、各活動毎の運営委員会制にして、検討、決議を行う体制に移行してはどうかとの提案がありました。事務局で作成した活動運営案について説明がなされた後、各会員に参加、協力したい活動についてそれぞれ希望を述べてもらいました。運営委員については、世話人代表、世話人で再度検討・調整し、各会員に改めて依頼を行う旨、承認を受けました。

また、事務局体制について、大学、行政、将来的には地域住民の会員によって構成される形が望ましいのではないかと提案があり、第一歩として行政に事務の一旦を担ってもらうことが決定しました。

最後に、設立総会の日時、内容について自由に意見を出してもらい、日時は、5月下旬、内容は、大和町町長と国際大学学長の対談、留学生から見た魚沼地域についてパネルディスカッション、会員と学生によるアトラクション等の意見が出されました。それらについては、次回準備会までに世話人代表、世話人が中心となり再度検討することで、全員の了承を得ました。

UMEX 設立総会

5月26日(日)開催予定!

設立総会についての、アイデア・ご意見のある方、事務局までお寄せ下さい!

UMEXの目的と内容

UMEXでは、次のような活動をしています。会員年会費は3,000円です。入会は随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。夢っくすサロンの見学も大歓迎です。

1. 夢っくすサロン

サロン開設(火曜・金曜)
母国紹介シリーズ開催
昼食ギャザリング実施
留学生(外国人)の生活相談
日本文化紹介(茶道・華道など)実施

2. イベント

バスツアー実施
日本文化デー開催
その他地域の国際理解を広げる行事の実施

3. 広報

ニュースレター発行
ホームページによる情報発信
地域向け広報活動

4. 研修

パソコン・インターネット教室開催
「日本語教え方講座」
受講者向け研修会開催
他の国際交流団体との交流など

5. 多言語学習支援

外国人向け日本語会話
パートナー募集・紹介
日本人向け外国語講座開催

6. 事業

ホームステイ/ホームビジット
バザー
翻訳・通話事業など

会員特典

《ニュースレターの送付》

《イベントへの優待参加》

《各種研修への参加資格》

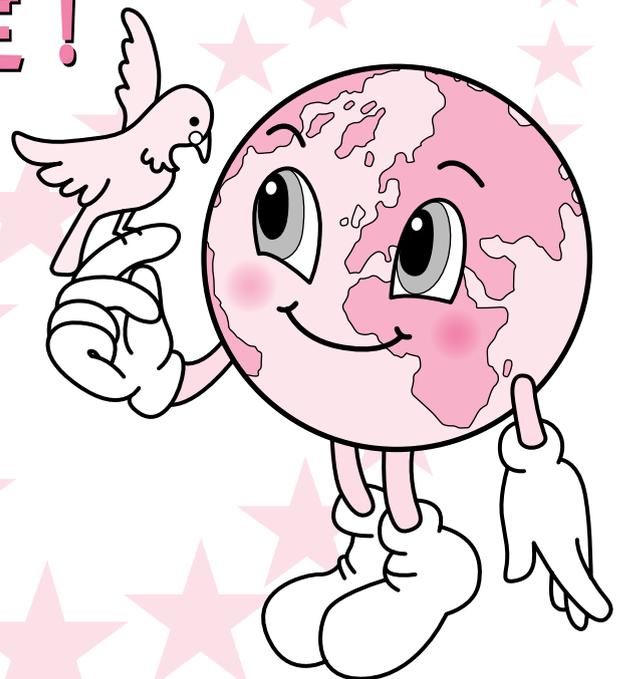
キャラクター決定!

「多文化共生社会へ向けて、異文化の理解と魚沼地域の国際化に協力し、連帯と協調の精神で地球社会の発展と平和の実現に寄与することを目的」とするUMEXをイメージしたキャラクター募集を行ったところ、5件の応募をいただきました。

第4回準備会において厳正な選考を行った結果、塩沢町南田中在住の山口智美さんのキャラクターが採用作品に決定されました。

なお、Tony Hsieh(トニー・シエ)さん(台湾/カナダ出身、国際大学国際経営学研究科2年)とArnold Alderite(アーノルド・アルデリーナ)さん(フィリピン出身、国際関係学研究科1年)の作品を入選作品とし、大和町五箇在住の小島久明さん、小出町小出島在住の赤堀陽子さんには、参加賞をお贈りすることをあわせて決定いたしました。

ご応募に感謝しお祝い申し上げます。
おめでとうございます!



手にとまっているピンクのハトは平和の象徴。絵の地球と平和は友達ということと、数ある星の中で、地球はたった一つであって、世界も一つであり、そこに共に生存している人間は、みんな同じ空にすむ友達であるという意味があります。

